

〔申し入れ書〕

在日米軍司令官

米陸軍第一軍団司令官マイケル・ハリソン少将殿

論語の中で、孔子が自分のお弟子の子貢から問われました。

子貢:「生涯をかけて保つべき大切なことは何でしょうか」

孔子:「それは、『思いやり』だと思うよ」(『思いやり』は『慈しみ』にも通する)

子貢:「『慈しみ』をいかになすべきか」

孔子:「大工が仕事をするには、まず道具を磨く。『慈しみ』の実践にもまず心身を磨かなければ」この『思いやり』、『慈しみ』。この世の中に『思いやり』が広がって欲しい。

ところで、同じ日本語で使われている「思いやり予算」はどうでしょう。思いやりとは正反対の人殺しの戦争のための「在日米軍駐留経費」のことを「思いやり予算」と言うのはどうしてでしょう。私達からしぼりとった税金から年間1881億円負担しており、こんな国は世界中に日本だけです。またその他に米軍再編関係経費として909億円。明らかに、人殺しの戦争のためのお金を出させている米政府も、戦争のためのお金を「思いやり予算」と言うやさしげなことばの包み紙にくるんでごまかしている日本政府も確信犯です。米国政府の方針に従って、米軍兵士は、人殺しの武器と人殺しの技術を磨いているとは、なんと悲しいことでしょう。肉親を殺され、生活を奪われた攻撃相手の国の人々の、苦しみと悲しみを考えたことがありますか。

米軍再編により米国の世界戦略のアジアでの砦と化した日本の米軍基地からの出撃は、相手の国からの攻撃目標になります。私達は米軍に帰ってもらいたい。そして自衛隊を米軍の奴隷化することは辞めてください。自衛隊は、災害救助隊になってほしい。多発する地震と、それに伴っては確実に起こるといわれる原発大災害、天災。この地球はみんなで心を合わせて環境を守らねばならない危機に瀕しているのです。

米国は米軍再編計画で約束した第一軍団司令部をキャンプ座間に300人で移駐してくると言っていましたが、其の計画をいっのまにか変更し3人の専任と残りは在日米軍との兼任で合計70名ですね。それは喜ばしいことではありますが、一方、普天間基地の即時閉鎖の約束はどうしたのですか。地元の県民が一体となって反対する辺野古に新基地を何が何でも作らせようと言うのはどうしてですか。日米の約束だからですか。第一軍団の計画と、横田の空軍の日米の約束はいつの間にか変更したのに、辺野古に新基地を作らせようと、約束を守れと言うのはおかしくないですか。憲法九条の下、私達平和を願う市民の共通の言葉は、「殺すな!どんなときも、どんなところでも!」です。

もうすぐクリスマスです。米軍は人殺しをやめて今すぐ故郷へ帰り、平和のうちに暮らそうではありませんか。まだ間に合うかもしれない今のうちに。

2010年12月18日

バスストップから基地ストップの会と12・18座間行動参加者一同